オリエンテーリング
マガジン 10 周年

10 年を振り返って

小野盛光
松澤俊行

発刊のいきさつは他のかたにお任せして、私（小野）が主に担当してきたことについて振り返ってみたい。

マガジンの中での小野

私は印刷発送と大会の案内、JOA 情報、東海地区のイベント報告を毎号担当してきました。そのほかはその時々の状況に応じて執筆してきました。

印刷

印刷は 2000 年 4 月の発刊から 12 月まで私が持っていたリソグラフ（印刷機）を使って印刷をしました。原稿は木村さんら 3 名の編集陣が取りまとめたものを、確か木村さんは光沢紙にプリントし私に送っていただき、リソグラフで印刷しました。私の持っていたリソグラフはB4が最大サイズだったので、2 つ折の B5 が本のサイズでした。中折のため隣り合うページを間違いなくセットする必要がありました。

一番の苦労は写真を少しでも見えるように濃度や濃淡を調整することでしたが、かなりつぶれた写真が多発しました。

そこで限界を感じたので、近くの印刷屋に依頼することにしました。価格を安くするために簡易印刷をしました。リソグラフに比べるとかなり良くなりましたが、まだまだ写真がつぶれたりして鮮明でなく、ページによるばらつきが大きかった。簡易印刷のため、プリンターで出力した原稿を持ち込み、それから版を作って印刷した。少しでも印刷の品質を改善するため、レーザープリンターを購入し、ディザパターンで印刷できるようにした。さらに写真の濃度や濃淡を試行錯誤で調整し、出力した。それでも十分な品質の写真ができず、ときどき印刷屋に苦情を言った。

その印刷屋も会社を閉じ、2006 年 2 月号から現在の印刷屋に変更になった。印刷代は 1 万円ぐらい高くなったが、印刷方法が変わり、写真を含めた印刷の質は格段と向上した。原稿は CD に入れ、原稿の変形確認のため、プリンター出力したものを添付し依頼する形で、写真の調整はほとんど不要になった。納期も 5 日以内で出来上がってくる状況でほぼ満足できる状態になった。

かってはページ数も60ページ近いことが多く、そのためにコストアップし、48 ページ程度に整理し、安定な紙面となるといいなあと思っていたが、最近は 30 数ページということもある。

同人誌も含めたほとんどの雑誌がカラー化している現在、見栄えが今一歩という感じを多くの読者が持って見えると思う。まずは 3 ページぐらい減らして、表紙だけでもカラー化が急がれると思われる。

オリエンテーリングガイド

オリエンテーリングガイドは大会情報提供が不十分なことがオリエンティア増加にネックになると感じ、始めた活動であるが、購読者の頭打ちの状態にあり、オリエンテーリングマガジンに参画することにより、一層の飛躍を狙いました。

このような大会ガイドはランニング誌にもありますが、オリエンテーリングの場合はフット、スキー、トレイルなどの種目、ポイント 0、スコア 0 など競技形態、ロング、ミドル、スプリントなどの距離、選手権、一般、グループなどのレベルでの分け方があり、複数日大会や、フット 0 とトレイル 0 を同一日に行なうなどなど、複雑極まりない。参加料の支払い方法も、サービス精神たくましく 2,3 種類を準備されていることが多く整理するのが大変です。言葉も様々なので、統一感のある書式に心がけています。

出来るだけ簡潔に表現し多くの情報を掲載しながらも頁数を減らし、印刷経費削減にも努力してきた。カタカナ表記を漢字表記にすることで字数を少なくするとともに誰でもわかりやすい表現ができる。例えば「レンタル」→「借用」、「グループ」→「組」、リレー大会に併設される「スプリント」→「個人」、「リザーブ」→「補欠」である。

最近の傾向として、要項の発表が遅くなっている。運営力の低下が要因かと思われる。

JOA－info

JOA の広報を担当するものとして、JOA の活動やお知らせを遅滞なく流すのも重要な役割であり、隔月発行のオリエンテーリングマガジンを利用するのは理にかなったことである。

従来、これとは別に強化委員会が頁を設けていたが、同じ JOA として合体した。これにより紙面の有効利用が可能になった。

NEWS

「NEWS」は Nouth East West South というオリエンテーリングにふさわしい方角を示す言葉の頭文字をとってつけた名前である。一時、クラブの機関紙などから光る話題を拾って、紙面を構成していた。一方「東海レポート」では東海地方のニュースを簡潔に掲載してきたが、これを全国に拡大することで、広範囲のニュースの受け皿になろうと考えている。多くの人々からニュースの提供を待っています。

最後に、オリエンテーリングマガジンが日本におけるオリエンテーリングの発展につながっていくことを願っています。

（小野盛光）

10 年の財産

松澤俊行

おかげ様で私の連載もこの号で58回を数えました。創刊号から掲載されていたわけではありませんが、オリエンテーリングマガジンと共に、10 年近く歩んで来られたことは自身の財産になっています。

ただ、連載記事も、執筆陣も、マガジン本体もいろいろと難しい時期に差し掛かって来たこともまた事実。私個人の役割には「一区切り」が近いのかも、との感触も…。

（松澤俊行）